

**京都における日本画新人賞
「京都 日本画新展 2026」
受賞作品の決定および作品展の開催について**

2025年12月19日
「京都 日本画新展」運営委員会

西日本旅客鉄道株式会社では、京都新聞と共同主催で日本画を志す、創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都の文化の発展に寄与することをめざし、2008年度から18年にわたり、京都における日本画新人賞「京都 日本画新展」を開催しています。

このたび、以下のとおり「京都日本画新展 2026」(2025年度)の受賞作品が決定するとともに、京都の文化振興の取り組みの一つとして、また多くの皆様に日本画文化をお伝えする場として、「京都 日本画新展 2026」作品展を開催致しますのでお知らせします。

1 受賞作品 (作品紹介別添)

※年齢は2025年11月5日現在、敬称略、回数は2008年度以降の京都日本画新展への出展回数

(1) 大賞：1点(賞金30万円)

○作者名 中村 勇太 (なかむら ゆうた) 33歳 初出展
○作品名 一笑図

(2) 優秀賞：2点(賞金10万円)

○作者名 波賀野 文子 (はがの ふみこ) 34歳 2回目
○作品名 邂逅

○作者名 堀 花圭 (ほり はるか) 27歳 初出展
○作品名 One day -waterfalls-

(3) 奨励賞：3点

奨励賞・京都府知事賞

○作者名 吉原 拓弥 (よしはら たくや) 33歳 3回目
○作品名 生々瑞芽

奨励賞・京都市長賞

○作者名 植田 吏 (うえだ つかさ) 23歳 初出展
○作品名 影見

奨励賞・京都商工会議所会頭賞

○作者名 土淵 麻衣 (どぶち まい) 34歳 2回目
○作品名 相

(全体総評)

古来、日本絵画に描かれてきた自然観はアニミズム的宗教観に支えられ、受け継がれてきました。次代の日本画の在り方を考えるとき、二次元表現への回帰は日本絵画独自の造形性や芸術性を見極める大切な要素であると考えます。美を基軸とした普遍性、時代が求め、鑑賞者や作家が追求する根底にはアニミズムがある。創作の源となる自然への眼差しは、現代の若い作家にも確実に受け継がれている、そんな思いを抱く事が出来ました。

2 作 品 展

作品展の名称：「京都 日本画新展 2026」

日時：2026年2月6日（金）～2月15日（日） 計10日間

午前10時～午後7時30分（最終日は午後5時まで）

※会期中無休 入館は閉館の30分前まで

会場：美術館「えき」KYOTO（ジェイアール京都伊勢丹7階隣接）

入館料：無料

内容：出品作品全30点と推薦委員制作の作品6点

3 出品作家によるギャラリートーク

日時：2026年2月7日（土）・8日（日）・14日（土）・15日（日）等を予定（※）

会場：美術館「えき」KYOTO（ジェイアール京都伊勢丹7階隣接）

入館料：無料

内容：作品展内で出品作家が自身の展示作品の解説を行います。作品の背景や作家の想いなど、作品展や作品の新たな見方や楽しみ方が広がる機会です。

※詳細はホームページ等でお知らせします。

（<http://event.kyoto-np.co.jp/event/shinten2026.html>）

4 授 賞 式

日時：2026年2月12日（木）午後6時

会場：ホテルグランヴィア京都

5 事業の概要

別紙1 参照

作品紹介別添

○大賞 中村 勇太 (なかむら ゆうた)

『一笑図』



コメント

愛犬の成長を書き留めた写生、そして西陣で学んだ古典文様・図案の謂れをもとに竹文様を中心とした着物を重ね、一笑図（竹+犬=笑、と見立て古来より縁起の良い取り合わせとして描かれてきた画題）としました。

素材：和紙、岩絵具、水干絵具
墨、箔、金泥

○優秀賞 波賀野 文子 (はがの ふみこ)

『邂逅』



コメント

夜の川、オオサンショウウオたちが餌を求めて活発に動き出す。それぞれが縄張りを持ち、単独行動をする彼らが邂逅したとき、何が起こるのだろうか。自然界で生きることの厳しさと美しさ、一瞬の緊張感の中に宿るオオサンショウウオの悠然とした佇まいの表現を試みた。

素材：高知麻紙、岩絵具

○優秀賞 堀 花圭 (ほり はるか)

『One day -waterfalls-』



コメント

日常の記憶をモチーフに、身体や心が感じ取った「感覚そのもの」を視覚化し、鑑賞者の内面にまで作用するような絵画空間の可能性を探求することをテーマとしています。経験を通して得た感覚や気配、空気の密度のようなものを、色彩や形を通して表現することに取り組んでいます。

素材：麻紙、岩絵具

○奨励賞・京都府知事賞 吉原 拓弥（よしはら たくや）

<p>『生々瑞芽』</p> 	<p>コメント 「この世のすべては絶えず変化する"諸行無常"である。永遠を手元に置いておくことなどできない。だからこそ、時代がどのように流れようと、松が力強く新芽を伸ばすように、あるいは鷹の目の鋭い眼光のように、確固たる意志を抱き続けたいと思うのだ。」 素材：綿布彩色、岩絵具、水干絵具、墨、金属箔、胡粉、雲母</p>
---	---

○奨励賞・京都市長賞 植田 吏（うえだ つかさ）

<p>『影見』</p> 	<p>コメント 私は、人やものなどの他者と関わるとき、その関わる対象と自分の存在が重なったり、離れたりすることで、境界が曖昧になる瞬間がある。そのような体験を基に、私は、私と他者との境界が揺れ動く現象を、作品で表現している。 素材：ステンレス、和紙、墨</p>
--	--

○奨励賞・京都商工会議所会頭賞 土淵 麻衣（どぶちまい）

<p>『相』</p> 	<p>コメント 土の上にたくさんの植物が寄せ集まって、空気と水を吸い、互いに作用した時にせめぎ合いながらひとところに生きている。その小さな空間に、世界の有り様を見ているような気がしている。 素材：高知麻紙、岩絵具、水干絵具、箔、コンテ</p>
--	---

「京都 日本画新展 2026」の概要

1 事業の趣旨

京都における日本画は、「京都画壇」として多くの人材を輩出し、今日に至っています。また、日本画の世界を通じて育った人材は、京都に伝来する美術、工芸、産業振興に広く深くかかわり、その基礎的部分を形成しています。

「京都 日本画新展」、そして「続(しょく)『京都 日本画新展』」を通して、日本画を志す若手作家たちが、生き生きと日本画を描くことを応援し、その活躍の場のひとつを提供してまいりました。

2018年度から京都府、京都市、京都商工会議所が共催となり、「京都全体で本展に取り組む」ことをめざしています。そして推薦委員には現在、芸術大学で教鞭をとられている方々を起用し、より幅広い、多様な出品者が期待され、また新しい選考委員のもと、多角的な視野から作品審査を行っています。

伝統と文化、そして大学の街・京都の特性を最大限に生かし、引き続き日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展をめざします。

2 主 催 者 等

- 主 催 西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
- 共 催 京都府、京都市、京都商工会議所
- 後 援 京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

3 運 営 体 制

(1) 推薦委員 (50 音順、敬称略)

- 石股 昭 (奈良芸術短期大学教授)
- 雲丹亀 利彦 (京都精華大学教授)
- 大沼 憲昭 (嵯峨美術大学名誉教授)
- 川嶋 渉 (京都市立芸術大学教授)
- 西久松 吉雄 (成安造形大学名誉教授)
- 村居 正之 (大阪芸術大学教授)

※出品作家の推薦は2025年5月上旬に行ないました。

(2) 選考委員 (50 音順、敬称略)

- 内田 あぐり (日本画家、武蔵野美術大学名誉教授)
- 大野 俊明 (日本画家、成安造形大学名誉教授)
- 澤田 瞳子 (小説家、同志社大学客員教授)
- 下出 祐太郎 (蒔絵師、京都産業大学名誉教授)
- 村上 良子 (紬織作家、重要無形文化財保持者)

4 企画概要

(1) 参加概要

○原則として、京都を中心に活動している、あるいは京都にかかわりの深い概ね 25 歳から 45 歳前後の日本画家を対象に、推薦委員が出品依頼候補者を選出し、本人の参加意思を確認の上で出品を要請、今回は 30 名が出品。

<参考>出品作品数

「京都 日本画新展」

第1回 37名、第2回 38名、第3回 37名、第4回 37名、第5回 38名

続「京都 日本画新展」

第1回 39名、第2回 38名、第3回 38名、第4回 38名、第5回 39名

「京都 日本画新展」

2019 40名、2020 40名、2021 39名、2022 33名、2023 30名、2024 30名、

2025 30名(※選考対象は 29 作品)

○出品依頼候補者の選出に当たっては、京滋の美術系大学を中心として、日本画の継承に尽力する現場教員などと情報交換の機会を得て、推薦対象を積極的に拡大。

○大賞 1 点 (賞杯と賞金 30 万円)、優秀賞 1 ~ 2 点程度 (賞杯と賞金 10 万)、

奨励賞・京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞 (賞状)。

※大賞・優秀賞者を除く出品者全員に奨励金として 5 万円支給。

(2) 作品の条件

- ・額装、軸装、屏風装 (屏風装の場合二曲一隻のみ可) のいずれかとする
- ・額装の場合、額縁幅は片側 70 mm 以内、軸装は壁面に掛けられるものとする
- ・作品の大きさは、80 号 M (1455 mm × 894 mm) 以上から 100 号 S (1620 mm × 1620 mm) 程度、厚みは 100 mm 以内 (額装を含む)

5 事務局

京都新聞 COM 営業局事業部

〒604-8567 京都市中京区烏丸六角下ル七觀音町 634 ONEST 京都烏丸スクエア

TEL:075(255)9757 / FAX:075(255)9763 (平日の午前 10 時 - 午後 5 時)

作品の画像を希望される方は、事務局にお問い合わせください。